



■2010年_第4回定例会（第5日目）教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価の報告書に関する質問（2010.12.06）

◎【10番陣内泰子議員】 それでは、平成22年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について質問をいたします。

まず最初に、今回の点検評価報告並びに教育統計としてのデータ集が、昨年と変わって新しくなりました。大変見やすくなりました。そこで、このように変えた目的と、それによって期待する成果というものをどのように考えていらっしゃるのか、それについてお聞かせください。

次に、評価についてです。有識者からの総合的意見でも触れられていることではありますが、ゆめおりプランの重点施策11のうち、5つの事項がC評価になっています。C評価というのは、一部が未達成であったということになっているわけですが、教育委員会自身が大変厳しく自己点検をしたということなのではないでしょうか、このことをどのように考えたらいいか。もう少し詳しく説明をしていただきたいと思います。

次に、個別項目のうちの特別支援教育についてお伺いいたします。

特別支援教育の充実に関しては、評価が公表されるようになった2008年度、これはC評価、2009年もC、そして2010年も、今年度ですが、C評価としてあります。特別支援教育に関しては、3年間の準備期間を経て、2007年度から本格実施、全市的な取り組みとなったわけですが。有識者の意見でも、C評価となっている施策については、どの部分が未達成だったのかを含めて、今後の方向性を明らかにしてほしいとの意見も寄せられているところです。この報告書だけでは、そういったことが読み取れないわけなんですね。そこで、評価のもう1つの軸である行政評価、それがどうなっているのかを見てみたわけですが、再事業、つまり、特別支援教育に関する再事業についての点検が、行政評価ではなされていないところです。

そこでお伺いいたしますが、特別支援教育の充実に向けて、こういった仕組みをどの程度やっていけば充実が図れるとお考えなのではないでしょうか、お聞かせください。

どの程度という点に関しては、予算との絡みもあるかと思うのですが、しっかり予算を獲得するためにも、取り組みの精査が必要と考えています。そこで、予算の変遷を見てみると、まず2007年度ですが、本格実施になったことから、前年比、大変、増となりました。しかし、決算を見ると、予算の7割しか執行されていません。2008年度の予算は、減額されることなく、若干ふえている。これは期待が大きいところの施策であるという理由だと思いますが、執行率も93%となっています。しかし、点検評価ではC評価です。そして、2009年度、予算が若干減額となり、執行率94%。2008年度と同程度の金額の支出で事業が行われているわけです。そして、このときもC評価。

2010年度の予算は、金額こそふえてはいるのですが、メンタルサポーターとの統合があったということから、実質的には、特別支援教育の予算は減になっています。これで本当によくわからないわけなんですね。こうやって、重点課題であるとしつつも、予算が減ってきている。その中で具体的な施策の取り組みが見えてこない。これで、どうやってC評価をより進めていこうとお考えなのか。どうやって充実を図ろうとしているのか、よくわかりません。

そういう意味で、予算を獲得するためにも、しっかりとした現状分析、そして課題の抽出、そして、その対策と費用、そしてまた、施策を実施することによって得られる到達水準、こういった点をしっかり点検をして、財布を持つ市長部局、財政当局に示していかなければ、予算獲得もなかなか難しいところもあるのかなというふうに、この変遷を見て思うわけです。そこで、予算に向けての方策をお伺いしたいと思います。

最後に、交流授業についてお伺いいたします。今後の方向性として、特別支援学校による巡回指導を周知していくということが、この評価の中でも書かれています。特別支援教育がスタートしたとき、副籍事業、地域指定校との交流ということが言われていたわけですが、この授業はどのように展開されていくのか、具体的に評価がなされていません。巡回相談も必要でしょうが、こういった交流授業はどのくらい進んでいるのか、お聞かせください。

また、特別支援学級がある学校において、通常級との交流体制がどの程度進んでいるのか。また、この取り組みをどのように評価しているのか、お聞きしたいと思います。

最近のニュースで、障害のある子どもの教育についての議論として、中教審の特別委員会がこの12月3日、障害の程度が一定程度の場合は、特別支援学校に進む現在の仕組みから、本人や保護者が希望すれば、できるだけ普通学校に進めるよう改めることで大筋合意したと報じています。これは、政府の障害者制度改革推進会議が6月に、障害の有無に関係なく、一緒に学ぶ教育の検討を求めたための議論となっているわけで、今後、こういったノーマライゼーションの方向はより進んでいくと考えますので、この点を踏まえてお答えいただきたいと思います。

◎【市川潔史議長】 学校教育部長。

◎【坂倉仁学校教育部長】 点検評価に関しまして、見直した理由、そして期待する成果について、また、全般的なC評価が多い理由についての御質問でございますけれども、平成22年2月に、八王子市教育振興基本計画でありますゆめおり教育プランを策定し、教育施策を体系的に整理したところでございます。これは、総合的、かつ計画的な施策の推進を図るとともに、施策の全体像をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすことを目指したものでございます。今回の点検及び評価に当たっては、このプランの初年度であります平成22年度を迎え、平成21年度を振り返り、現状把握と課題の抽出を行い、プランの目指す方向へステップアップしていくための基盤固めと位置づけて行ったところでございます。

この作成に当たりましては、評価対象をプランの具体的対象とするとともに、可能な限り図表や写真を使用して視覚化し、取り組みをわかりやすく伝えられるよう工夫し、説明責任を果たすことを目的としたところでございます。

次に、一般的なC評価の考え方でございます。個別については別途お答え申し上げますが、

最終到達目標を5年後に置いている中で、C評価が多いことについて、外部委員の方からも、5年後を見渡すのではなくて、21年度の単年で評価すべきではないかという声もあったところがございますけれども、市民の期待等もあわせ、担当者のいわばその施策に対する思いも込められた中で、議員の御指摘にあったような厳しい指摘となったところがございます。

◎【市川潔史議長】 指導担当部長。

◎【佐島規指導担当部長】 私からは、特別支援教育にかかわる部分についてお答えをさせていただきます。

まず、C評価の理由ですけれども、特別な支援を必要とする児童、生徒に対する学校の支援要望というのは年々増加をしております。そのような中で、教育委員会としても、学校サポーターや巡回指導による支援、そして特別支援学級の設置など、充実に向けて取り組んでいるところでございます。

御質問者のお話にもございましたように、この点検評価にかかわった有識者の中には、B評価が妥当ではないかというような御意見もございましたけれども、結果として、学校の支援要望に追いついていないという現状がありまして、今回、C評価といたしました。

今後の、どういう取り組みをどの程度やっていくのかという御質問もいただきましたけれども、このことについては、現在取り組んでおります取り組みをさらに充実をさせていくということを基本にしつつ、やはり子どもたちにかかわる教員の資質向上という観点からは、教員研修の充実ということも大切だというふうに思いますし、教員に全部を任せるのかということをお問いただければ、やはりその部分については特別支援学校、そして関係機関との連携というのも必要だというふうに思っております。

当然のことながら、そういう人を配置をしたりすることについては、予算も伴うことですので、そのこともあわせて、内容の充実とともに、予算獲得にも努力をしてみたいと思います。

続いて、副籍交流と特別支援学級との交流の現状、考え方についてですけれども、通常の学級に在籍する児童、生徒と、特別な支援が必要な児童、生徒が交流を深めていくことは、特別支援教育を推進していく上で、児童、生徒にとっても、教員にとっても、非常に重要であるというふうに考えております。現在、特別支援学校と地域指定校との間で行われております副籍事業における交流ですけれども、学校だより、学級だよりの交換、それから行事の折の相互参観、それから授業での交流など、内容にも広がりを見せているところでございます。

それから、特別支援学級を併設している学校においては、通常の学級と特別支援学級の児童、生徒の交流というのが日常的に行われております。具体的には、交流給食や行事の参加、そして授業とともに学ぶというような取り組みも進んでいるところでございます。

◎【市川潔史議長】 第10番、陣内泰子議員。

◎【10番陣内泰子議員】 今、お答えをいただいたんですけれども、1点だけ、今後の施策の方向性ということについて、教員の資質並びに特別支援学校等関係機関との連携という

中で取り組んでいくというお答えがありました。その前段として、今まで、特別支援サポーターなどの御協力も得て充実を図ってきたという中で、今のそのようなお答えがあったわけなんですけれども、これから、より多くの子どもたちが普通学級の中で、また、今の交流授業やそういう中で、ノーマライゼーション、より多くの仲間たちの交流を学校の中で広げていくためには、多くの手が必要になってくると思うんですね。そういう中で、特別支援サポーターに関しては、ずっとこの3年間、予算等もふえてきていないという中で、今、学校の教員の資質並びに連携ということと同時に、そういう地域之力、また特別サポーターの専門性を高めるような研修も、それと、そのこの部分の充実も必要と思いますので、その点について取り組みをお伺いしたいと思います。

◎【市川潔史議長】 指導担当部長。

◎【佐島規指導担当部長】 特別支援教育において人が大切だということは私どもも認識をしているところで、それが十分にできていないという中で、御質問者の御提案にありましたサポーターの研修であるとか、端的に言えば増員というようなことも必要だというふうに考えております。私どもの予算要求の段階で、特別支援教育にかかわる予算については、優先度を上げて要求しているところでございます。